

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 10 月 20 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/20 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	26.6 °C	3.5 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h	33.6 °C	6.06 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.04 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h	32.3 °C	0.20 kPa g	A系： 0.07 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%

・10/20 10/16 に実施した1号機、2号機および3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価(毎月実施)において、3号機格納容器空調機供給温度(TE-16-114K#1)の温度傾向を評価した結果、当該温度計の点検(直流抵抗測定)を実施予定。なお、当該温度計は、実施計画に定められた格納容器温度の監視に使用可能な温度計。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/20 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	22.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	18.9 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	18.1 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	18.5 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	3号機タービン建屋	10/11 10:46 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	10/11 10:05 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (10/20 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運 転	水バランスを みて断続運 転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

・H26/10/18 10:43 高性能多核種除去設備については、本体の設置が完了したことから、RO濃縮塩水を用いた高性能多核種除去設備の系統試験(ホット試験)を開始。なお、ホット試験初期は間欠運転等で慎重に汚染水処理を実施し、処理量を徐々に増加させて性能を確認。運転状態については、漏えい等の異常がないことを確認。

<5. その他>

- H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
 - 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
 - 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
 - 8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。
 - 10/16～ 2号機開削ダクトについて、間詰め充填工事を開始。また、2号機立坑Aについては、10/20より間詰め充填工事を開始。
- H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
 - 6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
 - 10/3～ 凍土遮水壁造成工事における凍結管設置に伴い、埋設物(トレンチ等)を貫通させて凍結管を設置する箇所を対象に、事前の溜まり水調査を開始。
- H26/10/17 13:30頃 福島第一原子力発電所港湾内海底土被覆工事において、協力企業作業員(男性)が作業中に右手小指の指先を切断。14:00に入退域管理棟救急医療室に入室し医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると判断し、14:34に救急車を要請。なお、当該作業員に身体汚染はない。その後、14:47に急患移送車にて福島第一原子力発電所を出発。富岡消防署(救急車待機場所)で、救急車に乗り換えていわき市立総合磐城共立病院に搬送。医師による診察の結果、「右小指切断」と診断され、今後約1ヶ月程度の通院を要する見込み。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12のサンプリングを継続実施中。
- 1～4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ1の当社および第三者機関による分析結果[採取日 10/9]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認したことから、10/18 9:59、海洋への排水を開始。10:10に漏えい等の異常がないことを確認。同日 16:10、排水を停止。排水停止状態に異常がないことを確認。なお、排水量は 1,545m³。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- 10/17に採取した地下水観測孔No. 1-16のセシウム 134 及びセシウム 137 の分析結果については、前回と比較し10倍以上の変動があることを確認。今回の濃度上昇については、台風の大雨により濃度上昇したNo. 1-6の影響を受けているものと考えられます

<地下水観測孔 No.1-16 の放射能分析の結果(採取日:10/17)>

- セシウム 134:15 Bq/L (過去最大値:30 Bq/L、採取日:7/28)

- セシウム 137:45 Bq/L (過去最大値:86 Bq/L、採取日:7/28)

<地下水観測孔 No.1-16 の放射能分析の結果(採取日:10/16)>

- セシウム 134:1.2 Bq/L

- セシウム 137:2.6 Bq/L

この他に前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。念のため、地下水観測孔 No.1-6 および近傍の No.1-14、No.1-16 について、監視を強化している。

【1～4号機サブドレンの状況】

- 10/18～ サブドレン他水処理施設については、一部のサブドレンピットを使用して、H26/8/12より安定稼働に向けた浄化性能確認試験等を開始しているが、残りのサブドレンピット28箇所を加え、計42箇所(実際はトリチウム濃度の高いNo.1,N14を除く40箇所)について、系統運転試験(STEP3-2)のための地下水のくみ上げを開始。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上